

松本市教育研修センターだより

No.4 令和4年8月18日

松本市教育研修センター特別研修

～みんなの「今」を幸せに～ 熊本市の Edu-action に学ぶ

全国に先駆けた全市一斉オンライン授業の実現。児童・生徒の参画による校則見直しの制度化。ICTを活用した教師の働き方改革の推進。不登校児童生徒向けオンライン授業配信に特化した小中学校の設置…等々、先進的な取り組みを次々と企画・実現し、全国から注目を集めている熊本市教育委員会教育長・遠藤洋路氏を講師に迎え、オンライン研修会を、7月14日（木）に実施しました。



基調講演 「みんなの『今』を幸せにする学校」 熊本市教育長 遠藤 洋路 氏

「教育の目的は、教育基本法第1条に『教育は、人格の完成を目指し…』とあるが、現実には、ほとんどの人が『人格の完成』ができる前の段階。もし『人格の完成』ができるまで人は幸せになれないならば、ほとんどの人は一生幸せになれないことになる。そのような人生はよい人生ではないし、そのような社会はよい社会ではない」という理念のもと、次のような考えを共有し、取組みを進めてきた。

○教育（学校）の目的

「自分と社会の幸せ（Well-being）を実現する主体的な力（Agency）を育成すること」が教育の最上位の目標である。

○「将来」と「今」の幸せを保障する学校へ

- ・学校は、理不尽を我慢することを覚える場ではなく、理不尽なことを変える力（Agency）をつける場である。「社会に出たら苦勞する」としたら、苦勞するような社会を作っている大人の責任。将来、苦勞しない社会をつくる人を育てるのが学校の役割である。
- ・「将来」の幸せ（教育）に偏りすぎた学校から、「将来」の幸せ（教育）と「今」の幸せ（福祉）の両方を保障する学校を目指していく。（学校を、子どもの生活全般を支援する拠点に。教育の専門家（教師）と福祉・生活支援の専門家を同じくらい配置することが理想）

○教育ICT整備の目的は「授業改善」

教員が使うのではなく、子どもがICTを使うことで、**子どもが授業の主役になることが大切。**

教師主導型の授業から、**主体的・対話的で深い学び**への転換を目指す。

→ 他者と協働しながら、主体的に行動し、課題を解決する力（Agency）の育成

全ての子どもに学びの保障を フレンドリー・オンライン

遠藤教育長の基調講演に続き、熊本市で実施している「フレンドリーオンライン（不登校児童生徒向けオンライン学習支援）」について、熊本市教育委員会の宮津光太郎指導主事から、取組みの様子や、実施上の成果等について、発表をいただきました。会場の参加者からは熱心な質疑が寄せられ、宮津先生から丁寧にご説明いただきました。

「誰ひとり取り残さない学習支援」の理念のもと、オンライン学習支援校を、小中学校（本荘小学校、芳野中学校）に1校ずつ設置。そこから配信した授業等を、登校が難しい児童生徒が視聴する。（R4は152名が申し込み）オンライン学習に参加した場合は「指導要録上の出席扱い」とする。「つなげばそこに安心感のある場所があり、子どものはげみになっている」などの保護者の声。

以上、ご紹介した遠藤教育長の「みんなの『今』を幸せにする学校」と宮津光太郎指導主事の「フレンドリーオンラインについて（オンライン学習支援）」の講演の様子を、現在オンデマンドにて配信しています。下記の QR コードまたは URL からアクセスをお願いします。きっと明日からの学校経営や授業改善につながるヒントがあるのではないのでしょうか。

熊本市教育長講演会・フレンドリーオンライン

ゼロ

アーカイブ URL <https://youtu.be/u0Lmpf6tocs>



松本市特別支援教育研修会 夏季スキルアップ研修会

子ども真ん中支援

～子どもも保護者も先生も 孤立しないために～

信州大学教職支援センター教授の庄司 和史 先生をお迎えし、「子どもを理解するってどういうこと？」「保護者支援って何をすればいいの？」のふたつの視点からお話いただきました。

庄司先生のご講義のエッセンスをお届けします。

子どもを理解するときに大切なこと

様々な調査や標準化された検査を通した実態の理解も大切ですが…日々の生活の中にも大切な情報がたくさんあります

例えば・・・

- ・毎日、どのように生活しているのか
- ・どんなことを感じているのか
- ・どんなつながりを持ち、もちたいと思っているのか
- ・学校や勉強に対してどんなことに悩んでいるのだろう
- ・その子自身がどんな目標をもっているのか
- ・今日は、何ができるようになったのか
- ・明日、どんなことに挑戦したいと思っているのか



言葉として出ない子も、言葉以上に表現していることがあります。表現を受け止め、話をきくときは、傾聴することが大切です。

参加者の感想

- ・「頑張る」よりも「楽しく」…すべての子どもの行動には意味があり、大切なのは「楽しそうにしているか」ということが心に響いた
- ・「決めつけない、レッテル貼りをしない！」子どもに寄り添い心を大切にしたい

保護者を支えるということ

保護者が、障がい「かもしれない」時期の不安や、慢性的な悲観に苦しんでいるかもしれない、と想像を働かせその心情を理解したうえで対応することが大切です。

保護者を支えるということは・・・

- ・夫婦、きょうだい、親子…家族の色々な関係に着目し、よいところをたくさん見つける
- ・ずっと頑張らなくていい。「一日一つ」を積み重ねていくことを励ます
- ・保護者のイライラやあきらめも、人として正常な反応かもしれないととらえる



お問い合わせ
松本市教育委員会
教育研修センター
0263-87-9909
e-kensyu@city.matsumoto.lg.jp